

# 令和の御造営事業 修繕工事概要



## 各修繕事業における工期のご案内

令和7年修繕工事

御稲御倉・松尾神社・黄龍神社・随神門・回廊屋根張り替え

令和8年修繕工事

拝殿屋根張り替え・修繕、北側回廊・太鼓楼屋根張り替え

令和9年修繕工事

本殿・幣殿屋根張り替え・修繕、本殿裏の参道周辺整備



## 修繕を必要とする社殿と名称

### 伝統技術と職人の技

歴史ある建築物を守る宮大工を始めとする職人たち。修繕事業は、貴重な技術の継承そのものでもあります。

銅板葺きは高い専門性と熟練の技が不可欠な特殊な技巧なので継承に時間が掛かるうえに確かな腕を持つ職人が減少傾向にあります。伝統的な卓越した技術を発揮して、銅板屋根工事のすべてを芸術的に仕上げます。

人  
person

技術  
technique

材料  
material





# 令和7年の 修繕工事内容

## ① 御稲御倉の屋根張り替え工事

【令和7年3月～5月末】

51年ぶりの修繕

御稲御倉。昭和28年、第59回式年遷宮で伊勢神宮に建立され、新潟地震で被災したとして、昭和49年に白山神社に御下賜戴いた御稲御倉です。御稲御倉神をおまつりし、大切なお供えの稲を納める社殿。五穀豊穰、農事安全など農業に関わることや商売繁盛に、ご利益があるとされています。昭和49年以来51年ぶりの張り替えとなります。全国から選ばれた宮大工と最新技術により、その由緒ある姿を次代へつなぎます。

修繕前



修繕後



伊勢神宮様より古殿舎の撤去材、間伐材をいただきました。

伊勢神宮様の古材・ご用材を能登半島地震で被災した神社にいただけることとなり、61年前昭和39年新潟地震被災した際にいただいた御稲御倉と白山神社本殿・拝殿が伊勢神宮様の木材で蘇ります。





## ②③ 松尾神社・黄龍神社の屋根張り替え工事

【令和7年6月～6月末】

松尾神社61年ぶりの修繕

黄龍神社59年ぶりの修繕

松尾神社は現在の白山公園内にありましたが、白山公園造成にあたって神社は壊され、明治6年に白山神社本殿に合祀されました。その後、昭和39年に現在のこの地に再建されております。米どころ酒どころ新潟の酒業繁栄や醸造安全などのご利益、音楽・芸術・芸能の神、芸道上達を願う方の参拝が絶えません。

黄龍神社は昭和41年に建立。黄色の昇り龍すなわち金龍ともされて、金運・開運はもとより、何事にも強い力を持つとされております。

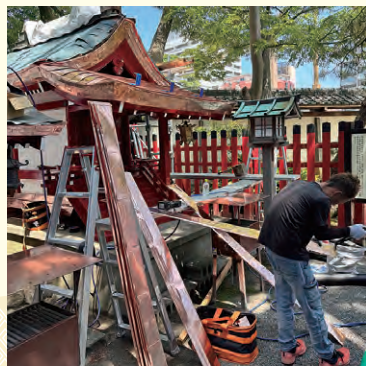
令和8年には液状化で傾いた土台部分の基礎の工事と塗り直しを予定しています。

能登半島地震の影響で職人の確保が難しい中、選ばれた匠が、小さい屋根を1枚1枚オリジナルで作りました。

修繕前



修繕後





## ④ 随神門の屋根張り替え工事

50年ぶりの修繕

【令和7年下旬～10月上旬】

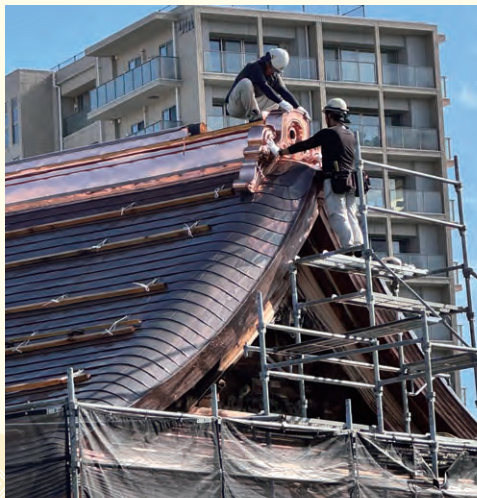
随神門は明治5年白山公園造成にあたり取り壊されました。図面も残っておらず一枚の写真が残っているのみです。総檜で壮麗な彫刻が施されていたという文書が残っており、これを百年ぶりに再現すべく昭和50年に工事が始まり11月に竣工致しました。楼門式で、北国の神社の随神門にふさわしく柱を太くし風雪に耐えうる造りとなっております。随神とは、【かんながら】とも読み、神により神のおかげをもって、この世を浄化し、世の人々の願いをよりよくかなえて、救おうという神の心を表すことであり、この随神門はその象徴として作られました。この門を通られる方に、あまねく御神縁(みたまのふゆ)をかがふりますようお願い建立されました。ゆくゆくは朱色や極彩色で塗られ、随神門扉には右大臣左大臣の随神像の画を書いて完成する予定でありましたが、先々代宮司急逝のため計画は止まったままになっております。

全国的にも珍しい大きな屋根は修繕が難しく、最新技術と熟練の経験値を持つ選ばれた匠たちがその技を尽くしました。

修繕前



修繕後





## 5 回廊の屋根張り替え工事

50年ぶりの修繕

【令和7年5月～6月末】

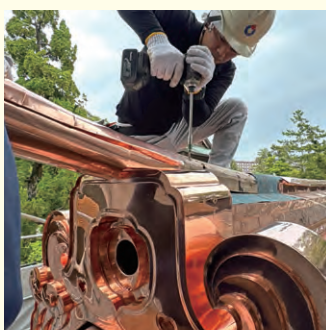
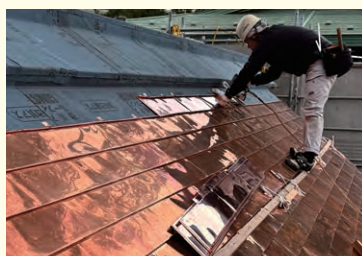
回廊は昭和51年秋に完成し、昭和39年新潟地震被災より12年をかけて昭和の御造営は完遂され、現在の白山神社の様子となりました。

大変手間がかかる作業となる今回も、耐久性の高い専用銅板を用い、先人の技術と想いを引き継ぎ、細部にまで卓越した技術を込め屋根ができあがりました。

修繕前



修繕後





# 令和8年の 修繕工事内容

## ⑥ 拝殿屋根張り替え・修繕

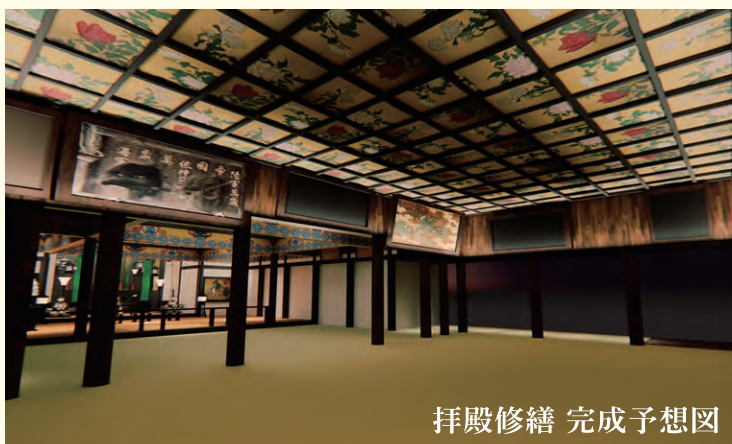
【令和8年3月中旬から6月末】

67年ぶりの修繕



みなさまのおまいりする拝殿の屋根張り替え・修繕を行います。  
漆塗り替え、照明器具を新しくし、床暖房を導入します。  
参拝者が便利にきれいな場所でおまいりしていただけるよう調えます。

能登半島地震により雨漏りした箇所や老朽化した電気配線を補修いたします。現在の拝殿の姿を大切に守りながら、照明や消防設備を現代技術、最新式に切り替えて、参拝しやすい環境となるよう修繕します。未来にわたり安全安心な拝殿として荘厳に調えます。



拝殿修繕 完成予想図

## ⑦ 太鼓楼の屋根 張り替え工事

51年ぶりの  
修繕

【令和8年7月下旬から10月上旬】



## ⑧ 北側回廊の屋根 張り替え工事

51年ぶりの  
修繕

【令和8年7月下旬から10月上旬】





# 令和9年の 修繕工事内容



## ⑨ 本殿・幣殿屋根張り替え・修繕

68年ぶりの修繕

【令和9年3月中旬から7月末】

みなさまに願いを書いていたいただいた銅板は、屋根として大切に使用いたします。



本殿屋根



本殿の扉



本殿・幣殿修繕 完成予想図

神様が御鎮まりになります本殿とそれをつなぐ幣殿の屋根張り替え・修繕を行います。地震で歪んだ本殿の扉と装飾を塗り直します。



本殿裏の漆塗り(塗装)が剥げ、欠落



難度の高い神社の漆塗り。  
国宝を手がける日光の匠が担当します。

神社の漆塗り職人の技術は、単に塗るだけでなく、建物を守り、装飾を施し、文化を後世に伝えるための総合的な技能です。国宝・重要文化財などの建造物や美術工芸品の保存修理を主に手がける職人に依頼して、江戸初期から脈々と引き継がれた、確かな伝統技術で甦ります。

## ⑩ 周辺整備

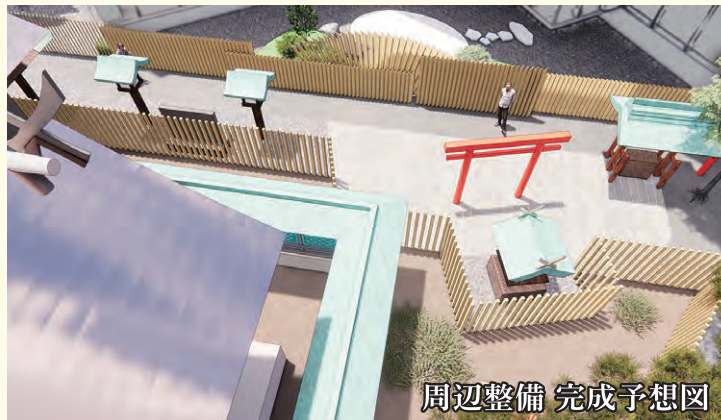
52年ぶりの修繕

【令和8年3月から令和9年11月末】

本殿裏の傷んでいる蛇松神社周辺・参道の修繕を行います。他、樹木の剪定も行い、朱塗りの柵も新しくいたします。小さな子どもからご高齢の方まで、誰もが安心して参拝できるよう整備を行います。



現状の本殿裏参道



周辺整備 完成予想図



# 令和の御造営事業・記念事業 奉祝行事の予定

令和9年3月上旬～8月上旬は、特別なご縁の時期となります。神様がみなさまの目前までお出ましになるので、よりお近くでご参拝いただけます。

## 仮殿遷座祭 かり でん せん ざ さい 【令和9年3月上旬】

本殿の修繕が完成するまでの間、神様を拝殿前方の仮の社殿(仮殿)におうつしする祭典です。仮殿は現在の玉串を奉納する所に設置され、神様が前に出て来られます。昭和45年7月1日～昭和46年6月23日の本殿・社殿修復の時以来となる大変貴重な機会です。

## 本殿遷座祭 ほん でん せん ざ さい 【令和9年8月上旬】

本殿の修繕、屋根の張り替えが完了し、新しくなりました御本殿に神様におもどり戴く本殿遷座祭を執り行います。



## 本殿特別拝観 ほん でん べつ べつ かい かん 【令和9年8月上旬】

神様に最も近い空間である本殿。普段は遠くからしかご覧いただけない神具や装飾、本殿内部を神職の案内とともに特別にご覧いただける、希少な機会をご案内いたします。

## お白石持ち行事 しら いし も 【令和9年8月中旬】

霊峰白山から拝受したお白石に願いを込めて、通常では立ち入ることのできない本殿周辺の神域に置き敷いていただく、由緒ある神事をご案内いたします。

各奉祝行事の詳細が決まり次第、ご案内申し上げます。

## 「令和6年能登半島地震 復旧」令和の御造営事業にあたり、 ご奉賛をお願い申し上げます。

昭和の御造営以降、本殿の銅板屋根の修理を繰り返してまいりましたが、頻繁に雨漏りが生じていました。そこへ令和6年能登半島地震の影響もあり、銅板屋根はついに限界を迎えました。また、被災地で神社仏閣の修繕が続く職人の確保が困難なうえ、材料の高騰も重なる厳しい状況ではありましたが、ようやく御造営事業を立ち上げることができました。みなさまのご奉賛によって、あたたかい心のよりどころが守られ、笑顔が広がる風景が、何十年先の未来へとつながっていきます。何卒、ご奉賛のほどお願い申し上げます。

総事業費	3億5千万円
募財期間	令和6年6月から令和10年3月予定
ご寄付依頼額	1口 5千円より <small>何口でも承ります。また、複数回にわたるご奉賛も承ります。</small> <small>累計2万円以上ご寄付を頂戴した皆様に「本殿特別拝観券」を送らせていただきます。</small>

